神戸大学医学部附属病院　D&Nplus ブラッシュアップセンター

Brush Up Letter

D&Nplusブラッシュアップセンターは、出産・育児・介護と仕事の両立をサポートします

2024年7月
Vol.47

Contents

1.《開催報告》みなとKOBEメディカルキャリアプロジェクト第1回院内講演会
2.《ご案内》 臨時託児サービス
3.《ご案内》マタニティ白衣・スクラブ・ズボンレンタルサービス

1.開催報告

開催日：2024年5月30日(木)　18：00～19：00　zoom開催

令和6年度　みなとKOBEメディカルキャリアプロジェクト

第1回院内講演会

各診療科における多様な働き方実現・若手医師のキャリア支援の取り組みを紹介しています。

<講演Ⅰ部>

「一人一人が無理なく楽しく仕事を続けられるために～皮膚科での取り組みと課題～」

皮膚科　講師　　**藤原　進　先生**

皮膚科の特徴として、女性が主体となることの多い診療科であり、女性医師の割合が多く、また入院診療より外来診療がメインであるため、開業を目標としている医師も多いという点です。

新たに入局してくる医師の割合は、ここ5年間でみても7割が女性となっており、関連病院を含め100人強いる医師のうち、１割が時短での勤務をし、1割弱が産前・産後休や育休に入っているという状況のため、フルで働いている方は８割ほどとなっています。医局の事情としましては、入局を希望していてもシーリングに引っかかってしまい、入れないという状況がある一方で、入局しても辞める方や配偶者異動のため医局を離れる方も多いのも、皮膚科の特徴なのかなと思います。

このような背景から皮膚科でのキャリア形成という点では、それぞれさまざまなライフイベントがある中で、いかに医師を続けていくかが、医局長としての最も重要なタスクということになっています。そのためには関連病院との連携をしっかりとることも重要で、アンケートで育児・介護などの時短勤務が可能かどうかなどコメントをいただき、次年度の人事に活かしていけるようにしています。

一方、女性や若手医師には、どんなキャリアを積んでいきたいかというようなことで、アンケートを取り、キャリア形成プランのための面接も定期的に行っています。時短勤務が可能な病院や本人が希望する診療について専門性の高い知識や技術を学ぶことができる病院はどこかなど、関連病院を含めて紹介できるようサポート体制を整えています。

新入局員の先生には、集中セミナーに参加してもらうことで、将来、自分が何をやりたいのか、どんな分野に興味を持てるかなど考えてもらう機会を設けています。モチベーションアップのための学術活動にも力を入れています。また、積極的に学会に参加することにより、いろいろな先輩の先生方からの意見を聞く機会や、子育てをしながら素晴らしいキャリアを積んでこられた先生方の講演を聞いたりすることで、「子育てをしながらこんなこともできるんだ」というようなことを感じ取って、自分だったら何ができるかを見つけてもらうことができれば、医局として積極的にサポートできる体制を整えていけると思っています。そのためには、まずしっかりとコミュニケーションをとっていくことが重要だと考えています。

<講演Ⅱ部>

「助け合いが当たり前の環境づくり～産婦人科の特殊性と将来に向けた取り組み～」

産科婦人科　特命教授　　**谷村　憲司　先生**

私たちの産科婦人科学教室は、特命教授3名、講師2名、助教7名と医員9名（大学院生3名含む）の合計21名が診療に当たっており、大学院生8名のうち5名が研究専念中です。産婦人科の診療は、産科と婦人科とに分かれており、産科では総合周産期母子医療センターで合併症のあるハイリスク妊婦さんを中心に取り扱っています。また、婦人科では婦人科悪性腫瘍の治療を中心に扱っており、寺井特命教授が着任されてからはロボット支援手術が導入され、内視鏡の技術認定医の数も増えました。

私たちの教室の学内での最近の取り組みについて紹介させていただきます。これまでは、産科と婦人科で役割を完全に分け、それぞれがチーム制で診療を行っていましたが、産科と婦人科の壁を取っ払い、混成チームにすることでチーム数を減らし、1チームの人数を増やしました。これにより、家庭行事や病気などで欠員ができても残ったメンバーで業務をカバーできる態勢を作ることができました。さらに、毎朝、全体カンファレンスを行い、問題症例を全員で把握し、それぞれのチームで今日の業務計画を確認して診療を始めるようにしました。また、すでに導入されている科も多いかと思いますが、学内医局員専用のグループLINEを立ち上げました。先日もお子さんが熱を出して急遽お休みせざるを得なくなった女性医師がいたのですが、若手の医局員が中心となって外勤先や外来の業務を短時間でうまく割り振って事なきを得ました。若手の先生方の助け合い精神には本当に脱帽ですが、教室員の連絡網としてのグループLINEは迅速なコミュニケーションを可能にしますのでお薦めです。

産婦人科医は絶滅危惧種とも言われており、特に地方ではそれが顕著で、分娩ができない施設が増え、出産難民が生まれています。分娩における急変に対応できるよう24時間365日、緊張を強いられる上に、婦人科の予定手術であったり、不妊治療であったり、通常の外来もこなさないといけないというのが産婦人科の特殊性と言えます。日本産婦人科医会のアンケート結果では、女性医師の占める割合は、約半数であり、外科系診療科の中では高率なのですが、うち4割ほどが妊娠中もしくは育児中で、さらに、そのうちの2割ほどが出産を機に離職するという深刻な現実もあります。また、男女を問わず、分娩を敬遠する産婦人科医師も一定数、存在します。そんな中で分娩を取り扱う産婦人科医師を一人でも多く確保・育成することが兵庫県だけではなく、日本全国で求められています。

私たち、神戸大学産科婦人科学教室でも医局員の先生方に大学病院や関連病院などで長く産婦人科医として勤務してもらうためには、教室が医局員の個々のキャリアアップを支援していくシステムを構築していくことが急務であると考えています。産婦人科医のキャリア形成には、大学院に進んで、博士号を取得して大学教官になる方もいれば、サブスペシャリティーの専門医が取れる認定施設で修業を積む方もいます。教室は医局員のキャリアアップに対する考え方の多様性を尊重し、個々に合った支援を行う必要があると考え、本年からこれまで行ってこなかった卒後15年目までの医師の個別面談を開始する予定です。

当科では、ご病気のないローリスクの妊婦さんの分娩も定員数制限なく受け入れしています。お知り合いに近隣にお住まいの妊婦さんがおられましたら是非、当科をご紹介ください。

2. ご案内

臨時託児サービス



院内で研修会や講演会等を開催する際に
ベビーシッターによる託児サービスをご利用いただけます。

利用対象者	院内開催の研修会等（※）に参加する医師・看護師等すべてのメディカルスタッフ
お申込方法	診療科または部署より「利用申込書」に必要事項をご記入の上、当センターへご提出ください。
託児対象	生後6ヶ月～小学校６年生
託児場所	当センターが託児室を指定
利用料金	無料でご利用いただけます

無料
（当センター
申込の場合）



詳細及び申込書類は、ホームページをご確認ください。

※　院内開催の研修会等に限ります。院外での開催の場合はご利用できません。

3. ご案内

マタニティ白衣・スクラブ・ズボンのレンタルサービス



＜利用申込＞
当センターHPより申込書をダウンロード
必要事項をご記入の上
学内便またはメールでご提出ください

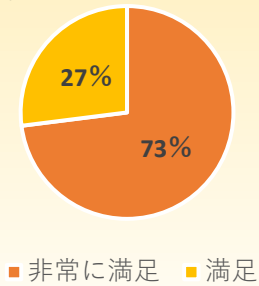
レンタルは無料です

サイズ

HPリンクQR



利用の満足度
（2023年度ご利用の方のアンケート結果）



＜対象者＞
神戸大学附属病院医療従事者（大学院生も利用可）

＜貸出し枚数・組合せ＞
白衣・スクラブ・ズボンとも各２着まで（在庫状況により３着まで可能）
白衣のみ、白衣+スクラブなど、希望の組合せで貸出しいたします。

＜貸出し期間＞
ご希望の時期から産休前まで（休暇前にご返却ください）

＜レンタル中のクリーニング＞
通常の白衣等と同様に院内リネン室へクリーニングにお出しいただけます。
詳細な手順は医局秘書様へご案内いたします。



「みなとKOBEメディカルキャリアプロジェクト」本号では第一回の様子をお届けしました。また次回のご参加をお待ちしております。
開催のご案内はホームページ・ポスターでお知らせします。



当センターのお知らせは、中央診療棟１階
エレベーター横の掲示板にも掲示していますので
併せてご覧いただけたら幸いです。

【発行】

神戸大学医学部附属病院　D&Nplus ブラッシュアップセンター
〒650-0032
神戸市兵庫区荒田町2丁目1-5　地域医療活性化センター1階
TEL 078-382-5266／FAX　078-382-5837
MAIL　brushup@med.kobe-u.ac.jp
HP　https://www.hosp.kobe-u.ac.jp/dn/